

【今日の説教から】

前章にはこのようにありました。「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。…それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。…神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜った御霊によって知るのである。」

イエス様は私たちに愛を現わされ、私たちの模範となってくださいました。このイエス様を信じて、このイエス様によって生きたいと願う人は新たに生まれ変わっています。そして神の霊を頂いています。

「あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているもの…。」

イエス様が肉体をとってこの世界に来られた。このことを告白する者は神の霊を頂いています。いや、神の霊によらなければそう告白することはできません。それは、イエス様が肉体をとられたということ、つまり霊である方、神であるお方が人となられたということです。そして私たちの世界に来られ、その肉体を、命を十字架におささげになられたということを経験するということです。神であるイエス様がこうして私たちに与えてくださった救いを信じます。

皆様おはようございます。梅雨本番の日々を過ごしております。先日は大雨と洪水の警報が出て、雷が鳴ったりしました。愛媛の松山城の城山の一部が崩れ、3人の方々のいのちが犠牲となりました。線状降水帯の出現や、ゲリラ豪雨などにより、災害が起こりませんようにと祈ります。

さて、前章にありました感動溢れる聖句を引用いたします。

3:1 わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。

3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。

3:18 子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。

3:19 それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。

3:20 なぜなら、たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたした

ちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからである。

3:21 愛する者たちよ。もし心に責められるようなことがなければ、わたしたちは神に対して確信を持つことができる。

3:22 そして、願い求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである。

3:23 その戒めというのは、神の子イエス・キリストの御名を信じ、わたしたちに命じられたように、互に愛し合うべきことである。

3:24 神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにはいますことは、神がわたしたちに賜った御霊によって知るのである。

私たちはこのように私たちを愛して下さる神の愛を知っています。そして神様は私たちを神の子とし、御国を相続する者としてくださいました。

ローマ 8:14 すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

8:15 あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。

8:16 御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

8:17 もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。

エペソ 1:13 あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。

1:14 この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

このように、私たちはキリストを知り、イエス様による神様の愛を知り、その愛の模範に従って進むようになりました。そしてその愛のおきてに従って歩む者には、願い求めよ、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからであると、聖書には書いてありました。

私たちが御子キリストによって新たに生まれ変わり、聖霊によって導かれ生きるということ、これこそが永遠のいのちです。そして聖霊によって生きるということが引き続き4章で語られます。

1 愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであ

るかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。

4:2 あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、

4:3 イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。

6節に、「真理の霊と迷いの霊との区別を知る」とありますように、私たちを取り巻く環境には、様々の「霊」があると聖書は語ります。様々の霊は私たちの心に働きかけようとしませんが、私たちは真理の霊である聖霊様をのみ心に頂くべきことは明白です。しかし様々の霊は私たちの心に巧妙に働きかけるのです。ですから私たちは「真理の霊と迷いの霊との区別を知る」必要があります。

「それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。」

2 あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、

3 イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。

常に私たちを悪しき惑わしの霊から守るものは、イエス・キリストであり、イエス・キリストによる知識です。

「すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ている」のです。これはどういうことでしょうか。

ここには二つの真理があります。一つにはイエス様が肉体をとられたということ、二つ目には、イエス様が来られたということです。

イエス様が肉体をとられ、来られたとはどういうことでしょうか。

イエス様はヨハネの福音書1章にありますように、神であり、最初から神様と共にあられた方。万物の創造の前からおられた方であり、万物はこの方によって創られたというお方です。

ヨハネ 1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

このお方が肉をとるということはどういうことでしょうか。肉をとるとは、被造物としての人間の姿となるという意味です。創造者である神様が、神である方が、どうしてわざわざご自分が作られた人間の姿とならなければならなかったのでしょうか。それは私たちの救いのためでした。

ローマ 8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

8:4 これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。

8:6 肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである

ピリピ 2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

ヘブル 7:17 それについては、聖書に「あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である」とあかしされている。

7:18 このようにして、一方では、前の戒めが弱くかつ無益であったために無効になると共に、

7:19 (律法は、何事をも全うし得なかったからである)、他方では、さらにすぐれた望みが現れてきて、わたしたちを神に近づかせるのである。

7:20 その上に、このことは誓いをもってなされた。人々は、誓いをしないで祭司とされるのであるが、

7:21 この人の場合は、次のような誓いをもってされたのである。すなわち、彼について、こう言われている、「主は誓われたが、心を変えることをされなかった。あなたこそは、永遠に祭司である」。

7:22 このようにして、イエスは更にすぐれた契約の保証となられたのである。

7:23 かつ、死ということがあるために、務を続けることができないので、多くの人々が祭

司に立てられるのである。

7:24 しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。

7:25 そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。

7:26 このように、聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され、かつ、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとってふさわしいかたである。

7:27 彼は、ほかの大祭司のように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために、日々、いけにえをささげる必要はない。なぜなら、自分をささげて、一度だけ、それをされたからである。

7:28 律法は、弱さを身に負う人間を立てて大祭司とするが、律法の後にくる誓いの御言は、永遠に全うされた御子を立てて、大祭司としたのである。

神様はイエス様を世の罪を取り除く神の子羊としていけにえとして、贖いの代価として私たちに与えてくださいました。その血潮と命によって、誰一人の例外もなく救いを受けることが出来るようにしてくださいました。これが主が肉をとられたということの意味です。主は人の贖いのために、罪深い人間の代表となるために人となりました。

1 コリント 15:34 目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。

15:35 しかし、ある人は言うだろう。「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」。

15:36 おろかな人である。あなたのまくものは、死ななければ、生かされないではないか。

15:37 また、あなたのまくものは、やがて成るべきからだをまくのではない。麦であっても、ほかの種であっても、ただの種粒にすぎない。

15:38 ところが、神はみこころのままに、これにからだを与え、その一つ一つの種にそれぞれのからだをお与えになる。

15:39 すべての肉が、同じ肉なのではない。人の肉があり、獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉がある。

15:40 天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。

15:41 日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、

15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、

15:44 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きたものとなった」と書いてあるとおりである。しかし最後のアダムは命を与える霊となった。

15:46 最初にあったのは、霊のものではなく肉のものであって、その後に霊のものが来るのである。

15:47 第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る。

15:48 この土に属する人に、土に属している人々は等しく、この天に属する人に、天に属している人々は等しいのである。

15:49 すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。

15:50 兄弟たちよ。わたしはこの事を言うておく。肉と血とは神の国を継ぐことができな
いし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。

このイエス様による救いをお聞きになられ、どのように思われたでしょうか。遠い昔のことで、本当に起こったか起こらなかったか分からないし、そんなに昔に死んだ人の死が自分とどんな関係があるかと思われるでしょうか。しかしイエス様は、私とあなたのために肉をとられ、来られ、十字架に死なれ、三日目に復活なされたのです。このことが信じられ、感謝の気持ちがしみじみとわいてくるということは、聖霊様のお働きによるものなのです。こうして私たちは神の霊を知るのです。

4:4 子たちよ。あなたがたは神から出た者であって、彼らにうち勝ったのである。あなたがたのうちにいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである。

4:5 彼らは世から出たものである。だから、彼らは世のことを語り、世も彼らの言うことを聞くのである。

4:6 しかし、わたしたちは神から出たものである。神を知っている者は、わたしたちの言うことを聞き、神から出ない者は、わたしたちの言うことを聞かない。これによって、わたしたちは、真理の霊と迷いの霊との区別を知るのである。

イエス様はおっしゃいました。

16:32 見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりではない。父

がわたしと一緒におられるのである。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

マタイ 28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

ですから私たちも、心を強くして、疎外されようと、憎まれようと、無視されようと軽んじられようとも、心を強くして、神から出たものとして、例によって語るものでありたいと願うのです。真理の霊に寄りすがりながら。偽りを退けて、私たちは神様の愛に、すさまじいほど大きく強く深き神様の犠牲の愛に応える歩みをしたく願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちが愛を知り、理解し、実行できるようになったのは、イエス様のおかげです。イエス

様が肉となって来られ、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。あなたは言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛してくださいました。そのことを感謝する私たちのうちには聖霊が宿ってくださいます。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」とのお言葉に感謝いたします。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン

(資料 ヨハネ福音書に見る「世」と神の民との相克)

ヨハネ 1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

1:6 ここにひとりの人があって、神からつかわされていた。その名をヨハネと言った。

1:7 この人はあかしのためにきた。光についてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。

1:8 彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである。

1:9 すべての人を照すまことの光があって、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。

1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

1:13 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。

ヨハネ 14:1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。

14:3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

14:4 わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。

14:5 トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。

14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

14:7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。

14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します」。

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、

それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

14:23 イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行き、その人と一緒に住むであろう。

14:24 わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉は、わたしの言葉ではなく、わたしをつかわされた父の言葉である。

14:25 これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

ヨハネ 15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちになさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまで

も残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

15:18 もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。

15:19 もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。

ヨハネ 16:20 よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜ぶであろう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであろう。

16:21 女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。

16:22 このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。

16:23 その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。

16:24 今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう。

16:25 わたしはこれらのことを比喩で話したが、もはや比喩では話さないで、あからさまに、父のことをあなたがたに話してきかせる時が来るであろう。

16:26 その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言わない。

16:27 父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。

16:28 わたしは父から出てこの世にきたが、またこの世を去って、父のみもとに行くのである」。

16:29 弟子たちは言った、「今はあからさまにお話しになって、少しも比喩ではお話しになりません。

16:30 あなたはすべてのことをご存じであり、だれもあなたにお尋ねする必要のないことが、今わかりました。このことによって、わたしたちはあなたが神からこられたかたであると信じます」。

16:31 イエスは答えられた、「あなたがたは今信じているのか。

16:32 見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりではない。父がわたしと一緒におられるのである。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。